

令和8年4月吉日

流山市立小中学校在籍の保護者の皆さんへ

流山市教育委員会
教育長 吉田 瑞穂



私が目指す流山の教育は、すべてのこどもの学習権を保障し、こどもが主体的に考え、何事にも挑戦し、失敗を繰り返して「生きる力」を養っていくことです。

社会の変化が激しく、急速に人工知能が発達していくことが想定されるこれからの時代、「新たなものを創り出す創造力と実行力」や「話し合いによる問題解決能力」、「多様な価値観を尊重する力」など、「生きる力」が必要とされていくのは間違いありません。

保護者としては、偏差値の高い学校への進学や一流企業へ就職してほしいと願う方もいるかもしれませんが。しかし、日本の終身雇用制度は崩壊しつつあり、今ある職業の約半分はなくなると言われるこれからの時代に大切なのは、学業の結果よりも、コミュニケーション能力や問題解決の能力、転んでも失敗してもそれをバネにして起き上がれる『生きる力』だと思います。

小学生には、失敗を恐れず、何事にも果敢に挑戦させてください。多くの経験を通じて、自分の特技・得意や苦手なことを自覚させてください。決して、保護者の基準で挑戦を諦めさせることや、やってもいないのに無理だと決めつけないでください。どんなこどもにも無限の可能性があり、たとえ親であっても、こどもの権利を奪うことは出来ません。

中学生には、自分の特技や特性を踏まえて将来、「何をやりたいか」「どうやって生きていきたいか」「自分がやりたいことを実現するために、今、何をすべきか」について、落ち着いた環境でこどもに考えさせるなど、未来の自分をイメージさせてください。

また、小学校1年生から中学校3年生まで全ての保護者にお願いですが、学校という集団の中で生活していると、必ずトラブルが起きます。友達等とトラブルが起きた際は、安心できる場所で、こども同士が話し合い、当事者間で解決策を見つけられるよう、大人は極力見守ってください。安易に大人が解決してしまうと、こどもは話し合いによる解決方法を学ぶ場がなくなります。こどもの人生は通常、保護者よりも長いです。自分のことは自分で決め、自分の力で問題を解決し、生きていく人間になるよう、保護者としては見守ることが重要ではないでしょうか。干渉でも放任でもなく「見守りや支える姿勢」だと思います。

学校も教育委員会も様々な課題がありますが、保護者の皆様からは是非、「批判」ではなく、「提案」をいただきつつ、学校・保護者・地域が手を携え、こどもたちが主役の学校を目指していきたいと思っておりますので、御支援、御理解のほど、よろしく願いいたします。